



たいらのきよもり

平清盛 は、どんな人だったの



武力をもつ実力者として出世し、ついには政権を
にぎって、平氏一門を栄えさせた人だよ。

平清盛は、1118年、伊勢平氏の平忠盛の長男として生まれましたが、本当の父は白河法皇だ、ともいわれています。30歳のとき、忠盛と祇園社（今の八坂神社）の人との間で争いが起こり、清盛がみこしに矢を射たために、大問題になった事件がありました。鳥羽上皇にかばわれて、ばっ金刑ですみました。

保元・平治の乱で出世し、公家・太政大臣になった

1153年に忠盛が亡くなると、清盛は、忠盛が築いた地位・財産を引きつぎ、平氏の武士団を率いる立場になりました。保元の乱（1156年）・平治の乱（1159年）で活躍した結果、武力をもつ実力者として、急速に出世しました。1160年、武士では初めて公家になり、1167年には、太政大臣にまでのぼりました。3か月後に、病気を理由に引退し、翌年には出家（僧になること）しましたが、その後も、朝廷の中での実力をもち続けました。

後白河法皇をとじこめ、独裁政治を行った

平氏一門が栄えるにつれて、貴族や民衆から、反感をもたれるようになりしました。1179年、後白河法皇が清盛を無視し、近衛家や平重盛（清盛の長男）の遺産の領地を没収したため、清盛は、法皇に近い公家たちの官位をうばって、平氏一門を昇進させました。さらに、法皇をとじこめて、独裁政治を始めました。

はげしい熱病で亡くなった

1181年に、清盛ははげしい熱病をわずらい、高熱と頭痛で苦しみました。雪を器に盛り、頭の上に置くと、たちまちとけて、お湯になったそうです。まもなく、64歳で亡くなりました。彼の死後、平氏の力は急速におとろえました。

ことばの意味 伊勢平氏 高望王（桓武天皇のひ孫）の子孫で伊勢（三重県）に住みついた平氏。